

# 来賓挨拶

牟田 泰三  
広島大学学長

「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」の開催にあたり、歓迎のご挨拶を致したいと存じます。

現代科学の進歩は、様々のかたちで私達の生活をより豊かにすることに貢献しております。人類の文明化と文化の発達には科学の発達と進歩の歴史でもありました。

20世紀の科学は、物理学、化学、および生命科学がその頂上に到達した世紀として位置づけられると思います。科学の成果が人類の生活を豊かにする一方で、成果の利用の普遍化と大規模化に伴って、その成果が一方では、地球温暖化、原子エネルギーの平和で安全な利用、化学製品の廃棄物処理の問題など人類に新たな問題を投げかけようとしています。21世紀は、科学の成果を人類の豊かで平和な生活の保証という枠組みの中で、達成させる道の確立が求められています。

私達の健康な生活は、私達の生活環境に大きく依存しております。まさに、私達は環境の子であるわけです。正常な温度、清浄な空気と水、安全な食品の確保は私達の生存の確保を意味しております。

生命の諸活動は、化学物質によって大きな影響を受けます。それは、私達の体を作り、また、それを活動させているものが、化学物質そのものであるからです。私達の体の活動は全て化学反応によって支えられております。私達の、生活を豊かにするために私達は実に多くの化学製品を利用しております。この化学製品或いはその廃棄物が、私達の体の中の化学反応に大きな影響を及ぼす可能性は大いにあり得ます。私達の体の化学反応を制御し、反応全体に調和を与えているのが神経系と内分泌系（ホルモン分泌系）です。最近の、生命科学の進歩によって、多くの化学物質がこの内分泌系に影響を及ぼすことが知られるようになりました。このような物質を内分泌攪乱化学物質と総称しております。

ヒト以外の動物ももちろんこのような内分泌攪乱化学物質によって、体の化学反応が大きな影響を受けます。野生の動物で、内分泌攪乱化学物質によって引き起こされる変化はヒトへの影響を考える時に大変参考になります。カエル、魚、鳥など私達に身近な動物での変化は特に参考になります。近年、これらの野生動物に対する内分泌攪乱化学物質の影響に対して、社会的な関心が急激に高まっているのはこのような理由からです。

広島大学は、カエルの研究において世界的中心の一つとして位置づけられております。川村智次郎元広島大学学長の業績を基礎として、昭和42年に世界に例のない、カエルの研究施設（広島大学両生類研究施設）が設置されました。ここでは、カエルの生態、分類、生理、遺伝、発生などの研究が総合的に行われております。カエルの研究に、4つの研究部門をもっている研究施設は世界に例をみません。

このたび、「第5回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」がこの広島の地で開催されることを知り、私は、カエル研究の世界的メッカである広島での開催であるという意味で、この研究施設を有する広島大学の学長として、大きな喜びと誇りを感じております。

このシンポジウムが内分泌攪乱化学物質への理解をより一層深め、21世紀の大きな課題であります、科学の進歩と人類生活の共存のための叡智の獲得に大きな貢献をなさいますように期待しております。

このシンポジウムを開催するために、多大なご尽力をなさいました、環境省、研究者の方々、広島県の関係の方々、また、ここに参集なさっております多くの方々に感謝申し上げますと共に、このシンポジウムが多大の成果を生み出すことをお祈りして、歓迎のご挨拶にしたいと存じます。ありがとうございました。